

隠岐島流油影響調査

勢村 均・石田健次

ナホトカ号から流出し、隠岐島黒島付近に漂着した原油の、潮間帯生物に対する影響を調査した。調査実施月日は1997年4月17日、8月5日であり、黒島灯台付近の漂着域付近の汀線を中心に、付着している動植物種と、出現割合を目視調査した。

結果および考察

4月17日：外海に面した岩場では、油は直径1cm程度の斑点状になって固着していた。

その周辺で観察された動物は7種で、ベッコウガサが優占した。植物は5種類で、石灰藻やソゾ類、ハバノリが多く、水面下ではアラメ、ワカメなどが多かった。

一方、油が主に漂着した内湾域では、水面上の岩場の凹部などに油の塊が見られた。その周辺で観察された動物は4種類で、ベッコウガサとタマキビ類が多く見られた。植物は5種類で、内湾域に生えるポウアオノリ、アオサが見られたのが特徴であった。

油が固着した付近では生物の死骸は観察されず、タマキビ類は、油の固着した場所に生息していた。今回の油の漂着は、もともと生物種や生息量が少ない内湾域が主だったことと、調査時期が遅れたため、油の漂着の生物に対する影響ははっきりとは観察されなかった。

8月5日：内湾域の岩場には、油が斑状に付着しており、最も湾奥部では油膜や漂着モク類への油の付着が観察された。但し、油の状態はまだ新しかったため、ナホトカ号由来ではないと考えられた。

出現した生物種は、4月より大幅に減少した。油の漂着した湾奥部のみならず、外海域でも同様な傾向が観察されたことから、この原因は、調査日が雨天であったこと、潮位が高かったこと、夏期で気温が高かったことによると考えられた。

潮間帯生物目視観察結果

調査年月日	97/04/17						97/08/05					
	外海域に出現した生物種			内湾域に出現した生物種			外海域に出現した生物種			内湾域に出現した生物種		
種類	汀線	潮上帯		汀線	潮上帯		汀線	潮上帯		汀線	潮上帯	
動物												
クロフジツボ	r											
イワフジツボ		**										
カメノテ	*			r			r					
ヒザラガイ	r											
カモガイ		*					rr	*				
ベッコウガサ	**			**			**					
ヨメガカサ	*											
タマキビ		*		**	*			**		*	*	
イボニシ	*						r					
イシダタミ				*						*		
ムラサキインコ	r											
クボガイ										r		
植物												
ボウアオノリ				*								
アオサ				*								
ハバノリ	*											
オバクサ				*								
石灰藻	**			*			**					
ソゾ	*											
アラメ	*											
ワカメ	*											
アカモク				*								

**：多い，*：普通，r：少ない，rr：希